

技術開発完了報告

秋田管林局
鶴岡管林署

題名	ワラビ栽培による省力造林				
自主分	署自主	開発期間	昭和56年 ～平成2年	担当	業務課 経営係
目	下刈作業の省力効果と地元対策としてワラビ栽培生産を行い林地の集約利用を図る。 (開発箇所：田麦俣森林事務所 100, ち1林小班外4)				
結	豪雪地帯の下刈り等の保育作業は長い方が良くと判断されることから、植付け後十年間程度は下刈り等の保育作業が省力出来るものと考えられる。			技術開発経費内訳	
				<人工> 千円 物件費 役務費 人件費 基職 その他 合計	
果	開発経過と調査内容 (概要) 下刈作業の省力化と造林木の生長観察に合わせてワラビの発生状況を観察調査する。 1. 予備調査(昭和56年～昭和58年) 発生状況調査(本数 根本径 草丈)				

2. 昭和56年度 業務研究発表
3. 昭和58年 100ち1林小班(0.29ha)以外の4箇所不適地として除外
4. 昭和59年スギ植栽(秋植)
5. 昭和60年スギ活着調査
6. 昭和59年～平成2年発生状況調査
7. 下刈の要否検討

評価及び普及指導

植付け後十年間程度は下刈り等の保育作業が省力出来るものと考えられる。しかし、国有林野の活用実施については、管理並びに造林等管理経営上の問題点も少なくないので、検討を加えないと実用化は難しいと思われる。

課題	ワラビ栽培による省力造林		経営課	開発箇所	鶴岡担当区
目的	下刈作業の省力効果と地元対策としてワラビ栽培生産を行ない、林地の集約利用を図る。		収穫係	100㍍	
年度別実施経過		職2年度 実施報告	(平成) 56 年 ~ 平成 57 年	備考 (評価及び普及計画等)	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 100㍍外 1.50ha 設定 2. 予備調査(56~58) 発生状況(本数根径 草丈)調査 施肥 3. 56年度 業務研究発表 4. 58年 100㍍(0.29ha)以外の4ヶ所不適地として除外 5. 59年スギ植栽(秋植) 6. 60年スギ活着調査 7. 59年~職2 発生状況(本数根径草丈)調査 8. 下刈の要否検討 	<ol style="list-style-type: none"> 1. スギ成長調査 2. ワラビ発生状況調査 3. 下刈作業の要否検討 4. 経過記録表等の整理及び評価等 <p>◎ 上記報告をもって完了報告に代える。</p>	<p>事業費 (技術開発) 46千円</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 下刈2年2回(60~61)実施。以降保育を目的として下刈作業必要なし。(ワラビの生産促進のための毎年実施は必要ない) 2. 一般人工林の場合、下刈終了後、ワラビ除去作業が考えられるが、該箇所については必要認められない。 3. 普通利用林野において一般入林者の認識不足から当該所の管理と地元関係者は対応に苦慮している。 <p>事業費 (技術開発) 千円</p>		

様式 6

課題:

試験経過記録簿

宮林署

分類		分類別番号			経費計		試験調査結果記録		取りまとめ及び発		調査者
年月日	調査(作業)種類	延人員	労賃	種目	数量	金額	試験調査結果記録		年月日	機関	官職氏名
60.7	調査						活着本数 = 525 調査本数 = 568 = 0.96 枯損原因 寒外%	平均本数 8.0本 " 根元径 2.8cm " 草丈 25.0cm			
60.8	調査						④0 平均成長調査ポイント (5m x 6m x 0.5坪) 平均本数 11本 " 根元径 2.1cm " 草丈 27.0cm	平均本数 11本 " 根元径 0.9cm " 草丈 22.0cm			
60.8	調査					1,600	④2 平均成長調査ポイント (5m x 6m x 0.5坪) 平均本数 11本 " 根元径 2.6cm " 草丈 110.2cm	平均本数 11本 " 根元径 0.7cm " 草丈 85.0cm			
60.9.20	調査					4,494	④3 平均成長調査ポイント (5m x 6m x 0.5坪) 平均本数 11本 " 根元径 2.5cm " 草丈 119.1cm	平均本数 12本 " 根元径 0.6cm " 草丈 86cm			
60.9.11	調査					8,960	④4 平均成長調査ポイント (5m x 6m x 0.5坪) 平均本数 11本 " 根元径 1.3cm " 草丈 142.8cm	平均本数 8本 " 根元径 0.5cm " 草丈 34.0cm			
60.9.11	調査					8,960	④5 平均成長調査ポイント (5m x 6m x 0.5坪) 平均本数 11本 " 根元径 1.3cm " 草丈 142.8cm	平均本数 10本 " 根元径 0.6cm " 草丈 110cm			
60.10.2	調査					26,000	④6 平均成長調査 (ポイント 5m x 6m x 0.5坪) 平均本数 10本 " 根元径 1.5cm " 草丈 206.6cm	平均本数 8本 " 根元径 0.7cm " 草丈 120cm			
60.10.2	調査					26,000	④7 平均成長調査 (ポイント 5m x 6m x 0.5坪) 平均本数 8本 " 根元径 0.4cm " 草丈 44.0cm	平均本数 0.2本 " 根元径 4.0cm " 草丈 1.5m			
計						60,994					

58号 1005 0.29ha 以外の大部分は試験地以外の不適地の除外

93-02-03 11:44 印刷

5年2月0日 承認印 起案者印

H2. 現在継続中

ワラビ栽培による省力造林

あて名 秋田県林業技術研究所 林業技術課
 様式 鶴岡県林業技術課 収獲係

課題: ワラビ栽培による省力造林 試験地台帳 鶴岡 営林署 4-1

分類	IV	分類別号	1	設定担当者官職氏名	署
試験調査目的及び期待成果	下刈作業の省力効果と地元対策としてワラビ栽培生産を行ない、林地の集約利用を図る。		試験調査概要	下刈作業の省力化と造林木の生長観察に合わせワラビの発生状況を観察調査する。 100.5.1 0.29ha, 100.11.1 0.16ha, 100.6.1 0.18ha } 5区画 101.11.1 0.53ha, 101.12.1 0.34ha } 1.50ha	

設定年	56年	計画期間	自 56 - (65) 至 H2	期間数	10年	試験地設定面積	1.50	試験地数	5
場所	山形県 東田川町 朝日池の平 国有林		鶴岡 事業区	100 林班	51 小班	地種	II	施業団	II-1 皆用

地況及び林況	① 気 候																		
	最高・最低気	年平均気	年平均温	年降水量	主風方向	積雪期間	積雪量	初霜	晩霜	その他									
	。	。	。	2,500	NW	自 11月 至 5月	400	10 中	5 中										
	② 地 勢			③ 土 壤			④ 伐採前(保育伐前)の林況												
	標高	方位	傾斜	基岩	深度	土壌型	針・広混交歩合	林令	人・天別	面積	ha 当り 本数 材積								
	m ~ m	W.	中	流紋岩	中	B.D. B.D.					m								
	350	500		お祀り位腐															
	⑤ 伐 採 (保育伐)					⑥ 伐採後の林況			⑦ 更 新										
	伐採種	針・広別	立・製別	集材方法	年月	率	面積	ha 当り 本数 材積	平均直径	平均樹高	更新種	年月	作業法	樹種	面積	苗木数	ha 苗木数 功 程		
								m	cm	m	新植	59.10		スギ	0.29	600	2,000	人	
⑧ 苗 木					⑨ 植 生														
種 子	生産地	人天別	生産畑	まき付・さし木別	サ サ 草 類 木 本 類														
				苗令別・数	種 類	斜面部	沢部	中腹部	峯部	種 類	斜面部	沢部	中腹部	峯部	種 類	斜面部	沢部	中腹部	峯部
										100㎡当り					100㎡当り本数				
										東 数					平均高(cm)				
															平均径(cm)				

(注) 1. ④の伐採前(保育伐前)の林況欄の記入にあたり天然林施業の場合は、これを試験地設定当時の林況、いわゆる保育行高伐(除伐、間伐等)部の林況に読みかえて記入すること。
 2. ⑤の伐採(保育伐)欄の記入にあたり天然林施業の場合は、試験目的による伐採、いわゆる保育行高伐(除伐、間伐等)の伐採について記入すること。
 3. ⑨植生欄の調査時点は試験地設定時とする。また調査時とは必ずしも一致しない。

P.1 98-02-03 11:42 印刷